

■サミット記念・関連イベント

イベント名	概要	時期・場所
沖縄芸能団公演	沖縄の民俗芸能（琉球舞踊等）を各国に紹介するため、3月から1ヶ月間、アメリカとカナダの5都市で巡回公演を行なう。芸能団のメンバーは県立芸大の学生やOBなどで組織。	3月 アメリカ・カナダの5都市
	6月には別の団体がヨーロッパのサミット参加国へ巡回公演を行なう。	6月 ヨーロッパのサミット参加国
学生サミット in 沖縄	東京と沖縄の大学生が協力し、フォーラムを開催。平和、環境、教育などの6テーマに分け、全国から集まった学生が討論する。期間中、ダイビング体験や基地視察ツアーなども行なう。	3月5日～7日 宜野湾市（沖縄）
アジア・ジャーナリストサミット 2000 in 沖縄	沖縄タイムス社と琉球放送社が韓国、中国、シンガポール、台湾、米国のジャーナリストを招いて開催。筑紫哲也氏をコーディネーターに、九州・沖縄サミットの意義・在沖米軍基地とアジアの安全保障の在り方、アジア経済の動向などについて討議する。	3月19日 宜野湾市のコンベンションセンター会議棟（沖縄）
講演会	鳶信彦（ジャーナリスト） 「二十一世紀への道－サミットから再生へ」	3月22日 南風原町立中央公民館（沖縄）
沖縄ナイト	沖縄の文化を世界に紹介するため、日本に駐在する外国人記者らに琉球料理や伝統芸能を披露する。	3月24日 日本外国特派員協会（東京）
沖縄ファッション・フォーラム2000	沖縄のファッション産業等の可能性、発展性について探るフォーラムと、ファッションショーで構成。ショーでは、各国首脳らに着てもらう沖縄オリジナルウェアの試作品も紹介。	3月26日 沖縄ハーバービューホテル
蔵相会合 記念シンポジウム	一般県民向けに、九州・沖縄サミット福岡蔵相会合に関心を持ってもらおうと、情報技術革命・アジア経済をテーマにしたシンポジウムを開催。	4月6日 西鉄グランドホテル（福岡）
サミット100日前 キャンペーン	(1)RBCラジオ生放送リレー (2)100日前カウントダウンボード除幕式 (3)ネーネーズミニライブ (4)サミット関連資料配付 (5)サミットパネル展（開催準備状況）	4月12日 パレットくもじイベント広場（沖縄）
沖縄「海のカーニバル」 2000	沖縄観光4大イベントの1つで、今年は九州・沖縄サミットのプレイベントに位置づける。ビーチ開きやヨットレース、ハーリー釣り大会、マリンスポーツ大会などを展開する。	4月16日～8月31日 沖縄県内16市町村と主要ホテル
宮崎こどもサミット2000	G8の小中学生（29人）が自然保護などについて討論し、「こども宣言」を出す。こどもサミットに先立ち3月27日から30日には参加者による体験学習も実施。	5月4日 シーガイア（宮崎）
アイランド・クエスト IN 沖縄&屋久島	インターネットを利用した参加型学習プログラム。米国の探検家8人と日本から3人の計11人でチームを構成。探索チームは屋久島原生林探索や海中、ヤンバルの自然探索などを行ない、毎日ホームページでその日の計画や問題、発見したことなどを紹介し、子どもたちから新たなテーマや解答、疑問などを交換していく。	5月25日～6月2日 沖縄本島・屋久島等
友好・姉妹都市 子供サミット in 名護	名護市と友好関係を結ぶ国内外の都市から小中学生を招き、環境や平和について語り合う。	6月20日～23日 名護市の会場
原爆展	広島市と長崎市が共催で、サミットに合わせて沖縄県内で原爆展を開催する予定。	7月サミット期間中 新平和祈念資料館

■その他のサミット関連ニュース

●サミット広報誌を県内全家庭に配布

タイトル：「サミット通信」

期 間：平成11年12月～平成12年7月

毎月1回（4月除く）合計6回発行

形 状：A4判・8頁・4色

内 容：沖縄県民へのサミット開催に対する理解と協力が得られるような豊富な情報

●サミット公募ポスター

応募期間：平成11年9月27日～10月29日

応募総数：288作品

入 選：最優秀作（県知事賞） 5作品

優秀作品 11作品

●ボランティア協力

沖縄県サミット推進県民会議が募った通訳ボランティアへの応募は県内外から約1600人。その中からプレス関係や代表団への情報提供、案内・通訳など必要とされるボランティアは約600人とみられ、研修を通して選抜・配置する。その他のボランティアも3月まで募集。茶道・華道の6団体で6650人の登録をしてもらった。また各自自治体の環境ボランティアにも協力を得ている。

●サミット副読本作製

宮崎県サミット協推進協議会が小学生向けにサミットを解説した副読本を4万部作製。3月初めから県内7つの小学校で、副読本を基に国際理解を深める出前講座を行なう。また、中・高校生向けの冊子10万部も作製する。

タイトル：「私たちのサミット みんな同じ空の下」

形 状：A5判・30頁

内 容：漫画を使って国際理解の重要性や、サミットの概要、宮崎県開催の意義などを説明

●県警がポスター配布

沖縄県警がサミットでの道路の混雑緩和に協力を呼びかけるポスター1万2000枚とチラシ30万枚を製作、県内の市町村や銀行などに配布。

●サミット警備を強化

サミット警備に取り組む県警など県公安委員会の予算総額は329億8241万円で、前年比8.8%増。うち7月に開かれるサミット警備対策の強化経費は17億4900万円が計上。

・新交通システムの整備運用 7億3200万円

・警察庁舎整備 5億7600万円

・応援部隊への補給関係及び救護措置 2億円

・応援部隊支援のための光熱水道費等 8,000万円 など

●iモード無料で報道陣に貸与

政府はサミット参加8カ国の計約300社の報道陣に対し、インターネット対応可能な「iモード」（ドモコ）端末300台とポ

ケットベル300台を1台ずつ無料で貸し出し、会議や記者会見の内容を日本語と英語の文字情報で提供するほか、プレスセンター内の主要な場所に電光掲示板を設置して情報発信する。サミットの主要議題の一つになるIT革命の日本での進展ぶりを世界にアピールする考えだ。

また、NEC、東芝などメーカー各社がモバイル型パソコン約100台を提供し、プレスセンターを“インターネットカフェ”化する。8カ国代表にも、iモード端末を2台ずつ貸し出し、会議の最新情報を伝える。

●サミット夕食会 浅利氏が演出

サミット開催中、那覇市の首里城で行なわれる首相主催の夕食会は、劇団四季代表で演出家の浅利慶太氏が演出を担当。

●イメージソングは小室哲哉

サミットのイメージソングは、県出身アーティストと関係が深く、若者層に影響力がある小室哲哉氏に作曲・プロデュースを依頼。

●タブロイド判の沖縄紹介

沖縄タイムスがサミット開催に向け、沖縄の歴史や文化、産業などを紹介するタブロイド判(24頁)「沖縄どうサミット」を3月7日発行。読者への配布のほか、全日空の機内などでも見られる。

●ホテルマンはサービス向上に研修

各国の首脳夫妻と閣僚クラスを迎える沖縄、福岡、宮崎3県の宿泊施設は「国際レベルのサービスを学ぼう」と、東京の一流ホテルに社員を派遣したり、講師を招くなどの研修を行なう。

●記念商品の販売

・オリオンビールがサミットを支援するビールを期間限定（7月下旬まで）で販売。缶ビールが1本売れるごとに1円ずつ積み立て、総額1000万円を沖縄県に寄付する。年頭から発売を始め、1月中旬に500万円を贈呈しており、今後1000万本の売り上げを達成した時点で残りの半分を寄付する。

・キリンビール沖縄支店はビールの缶やラベル、バックにシーサーのデザインが入った「九州・沖縄サミット」デザイン商品を発売。発売期間は1回目が3月15日から4月下旬、2回目が6月上旬から7月下旬までを予定。

・沖縄県酒造協同組合は、サミットの開催を記念して、100%10年貯蔵古酒「万国津梁」を3月1日に発売。

・サミット参加国の旗をあしらった帯を締めたりカちゃん人形「博多美人リカちゃん」を福岡市のデパートが企画し、全国から予約注文が相次いだ。価格1万円、限定2000体で2月から予約を受け付け、3月3日に完売。